

巻頭言 読めない！

日本教職員バドミントン連盟会長
関場 武



コロナコロナで落ち着かない世の中になってしまった。いつ、何処で、自分が感染し他人様にうつすかもしれぬ状況である。おかげで、この夏、南国市・春野町で開催する予定であった第59回全日本教職員バドミントン選手権高知大会も、中止となってしまった。3月の選抜に続いて、8月のインターハイ、全中も中止。それによさこい祭りも中止。そんな中で教職員大会だけをやるわけにはいかないことは自明の理。開催はとも無理であった。準備を進めて来られた高知県の連盟を中心とする方々のご尽力に報いることが叶わず、深くお詫びを申し上げる次第である。そしてまた、学校の休業が相次ぎ、部活も対面授業も自粛、フェイスシールドにオンライン授業という未曾有の状況に日々対応し、学生・生徒のために奮闘しておられるJEF会員の皆様に、心から敬意を捧げる次第である。

まさににつきコロナである。羽根を打ちたくても体育施設は閉まり、近所で素振りをする「うるさい!」、「あんたたち外出自粛のはずなのに、何やっての!」と、今次大戦中の割烹着にタスキがけの愛国婦人会、今は自粛警察と称するらしい一団に罵倒される始末。この前まではキズナ絆とうるさいほどのたまっていたのに、離れる、間隔をあけると、つれない仕打ち。これが新生活様式というものかとぼやいても、すべては難敵コロナウイルスに立ち向かうため。恐ろしいことである。

かてて加えて、混乱してるときでないと変えられないからと公言し9月入学や検察庁法の改正とやらを押し進めている輩たち。怖ろしいことである。

最近BWFのほうでビーチ・バドミントンならぬエアバドミントン：屋外で行なうバドミントンを、普及のために推奨し、用具・ルール等の開発を始めたという。

そうだ!それである。小生などは、バドミントンっていうものは、野原で風を計算しビニールの羽根を打ち合うものだと思っていた口。いよいよあの開放された空間で出来る日が来たと、懐かしさとともに半分嬉しくなっている。

さて、それはそれとして、最近、読めないことが増えて来ている。コロナ騒ぎの今後のこともそうであるが、ひと様の名前である。教職員大会や全日本教育系学生バドミントン選手権大会等で、表彰状を読み上げる時、間違えて失礼したり絶句することがしばしばある。毎年のように好成績を収められる…このみさんや…しずかさんの時も、これが難しいなどと呟きながら賞状を読み差し上げたりするのだが、大学生以下の学生諸君に至っては、それこそ大変である。

バドマガの全小や全中の写真入りの記録を見ると、近年は振り仮名が付けてあることが多いが、それが無かったら和義（なぎ）、彪太（あやた）、凜歩（りあ）、紅心（ここ）、吹羽（ふう）、陸歩（ときほ）：これらは皆、優秀な成績を上げた選手達の立派な名前であるが、振り仮名が無いと読めない。

寄る年波か、目はかすみ頭ははげ、イヤもとい、呆け、読めないことが多くなって来た。潮時である。本年度を以って会長職を降りることになった。16年に互る皆様方のご協力ご支援に衷心より感謝を申し上げる次第である。

そして、会員の皆様方にあっては、今後とも十二分に体調に気を配られ、学生・生徒への指導とご自身の鍛錬と、JEFに対するご支援を切にお願い申し上げます次第である。（5月20日 未だ見ぬアベノマスクと10万円を夢見つつ）。

目 次

巻頭言

第58回大会 研修会報告

令和元年度全日本総合選手権大会レポート

第9回全日本教育系学生選手権大会 結果報告/優勝者のことば

追悼 元日本教職員バドミントン連盟常任理事 今井正男先生

/ 表紙の人 / 奥付